

# 21世紀は お任せ! 赤ちゃん こんにちわ!!



パパ 晃一さん ママ るみ子さん

ふくだりな  
**福田 莉奈ちゃん**  
(丸岡地区)  
平成19年8月27日生まれ

**パパから一言**  
お出かけ大好きな  
莉奈ちゃん。  
またどこかに遊び  
に行こうね!

いしだ さくたろう  
**石田 朝太郎くん**  
(丸岡地区)  
平成19年3月28日生まれ

**ママから一言**  
優しい朝ちゃん、  
大きくなったらパ  
パとママを旅行に  
連れて行ってね。



パパ 博範さん ママ 裕美さん

## ご寄附・ご芳志お礼 (敬称略)

○社会福祉協議会へ

【香典返し】

地区名	世帯主	故人
新川	葦浦サチ子	長敏
竹中	鶴野レイ	壽
染竹	坂本ミツモ	政次
新川	川崎イツ子	敏治
古川	川崎チズエ	敏一

以上の方から金一封をご寄附いただきました。ご意志に添い有効に活用させていただきます。また、故人のご冥福を心から祈り申し上げます。

## 町の人口と世帯数 (平成20年5月1日現在)

人口総数	5,422	(- 5)
(男)	2,558	(- 8)
(女)	2,864	(+ 3)
世帯数	2,012	(+ 5)

## さくら団地好評分譲中!

役場裏「さくら団地」(全56区画)好評分譲中!  
・坪単価 52,000円～  
・1区画あたり面積 72坪～  
●詳細については、総務課企画財政班TEL 78-3111 (216) まで

## 美術館 Information

### ハートステージ第1弾

Tsunagi Heartman Project  
**津奈木ハートマン計画**

## 「重盤岩がキャンパスだ!」開催!

新進気鋭の美術家 岡山直之さんと一緒に町の日常に潜むアートの素材を掘り起こし、自由で大胆な表現活動を楽しむ津奈木ハートマン計画。春夏秋冬の計4回予定されているワークショップの第1回目が、5月18日に開かれました。当日は、子どもから大人まで約20名が参加し、ネイチャーゲームなどを交えながら重盤岩を舞台にした表現活動を楽しみました。詳細は、7月に発行する「ハートマン新聞」でお知らせします。



→ 今回のワークショップにおいて、参加者によりカラフルな毛糸で飾り付けられた重盤岩の森の中の一角。6月末までそのままだの状態です。この機会に重盤岩を散策してみたいかでしょうか。

つなぎ美術館 TEL 61-2222, FAX 61-2223

「おかんが海に落ちた!」  
「おかんが海に落ちた!」ケガはないみたいだけど、今は陸(おか)に上がってる。  
4月27日、朝8時28分、姉から携帯にメールが来た。その日は私の33回目の誕生日。朝からアソビキングな知らせてくれた。僕も朝から休みの朝で頭がボーッとしていた。僕も朝からたまたまおろすばかり。本当になくならない。こんな時はさらに機嫌が悪くなる。早くお家に電話して!」の一言でようやく我に返り実家のダイヤルをまわした。  
実家は「しろこ漁」をしている。毎年この時期が書き入れ時で、毎日朝早くから夜暗くなるまで。両親は張り詰めた緊張感の中で必死に働いてきた。海の仕事は一発勝負。ミスは許されなかった。  
さて、おかんが海に落ちた!と話を戻そう。うちの母は10年程前、それこそ漁に出ている時に足をすべらせ左ひざを強打した経験がある。そしてその傷は年々悪化し、とうとう平成16年には熊本市内の病院で整形手術を受けることになった。その後、リハビリ等で普通の歩行などは問題なく出来るようになったが、今の状況は以前のように激しい運動や激しい条件下の仕事(漁)に十分対応できるものではない。今回の出来事は、そのような中、人手不足と他人には任せられないという母の強い気持ちに起因したものだ。  
その日の夜、もう一度実家に連絡してみると(落ちる時にやっぱ足を打っていたらしく)、足がかなり痛み出して母が病院に行っていることがわかった。早速、妻と二人病院に駆けつける。そこには車椅子に座った母の痛々しい姿が。胸のあたりが苦しくなりながらも当番医が行う処置に立ち会っていると、骨折の可能性もあるということとレントゲンなどの検査を受けた。結果、幸い骨には異常がなく、ほっと胸をなでおろした。そして、ようやくすべてが落ち着いた。やっと母も落ち着いてきた。母の足が治るとき。まずは「命があっただけでもさだめだね」と言っていた。僕は「せつなかの誕生日なのに心配かけてごめん」と言い、母を病院へ連れてきた。妹には、「旦那さんの良いところを見て、もっと大事にしないか」と、なんと説教までした。足で言うんかい!と、泣き笑いの涙目のまま、変なイントネーションの関西弁でつぶやいた。  
数日後、私はゴルフデンウィークで取材等もなかった。たまたまの2日間ではあったが漁の手伝いに行き、やはり就労環境はあんなに厳しく船の上はまさに戦場のよう。従業員の怒号が激しく飛び交っていた。漁の帰り、夕日が沈むと不知火海を見ながら、この環境で母はこれまでずっと頑張ってきたんだな。そう思うと、また涙が出そうになった。  
今回の体験で感じたこと。母(女性)は限りなく強くてやさしいということ。それはうちの母のおかんだけではなく、世の中の全ての女性がそうなんだと思う。みんな強くて美しいのだ。全ての頑張っている女性に対して賞賛の拍手をおくります。  
5月11日・母の日に、だいさ〜